

## 茨城県にイボウキクサを見る

土屋 守

イボウキクサ *Lemna gibba* L. は1974年に名古屋市で野生化したものが発見されて以来、西日本で散発的に記録されている。また、本誌25号で大滝氏は山梨県忍野八海附近の産地を報告している。

私は1990年6月10日、茨城県の菅生沼に近い水海道市大塚戸町の排水路で本種を採集したので報告する。小さな人工池からの排水路で、幅は0.5m程で小さく水深も浅い。こんな排水路にウキクサ類が一面にあるのを見て何気なくすくい上げたところ、裏面に浮のうがあり、根も長くイボウキクサであることが判った。他のウキクサ類は混生しておらずよく見ると開花中であり、そのため浮のうがよく発達しておりイボウキクサの特徴がよく出ている。この附近の水路を捜してみたが、他には全く見られなかった。持ち帰って標本にし一部は培養しているが、花期を過ぎると葉状体は小さくなり、浮のうは薄くなってあまり目立たなくなる。

## ヒメビシの刺5本

中井 三従美

水草の代表であるヒシも生活の場所が減っている。身近でみられたヒシ属も、植物園や緑化センターの鉢で育てられている。筆者はヒメビシを3産地(刈谷市、笠松町、東山植物園)観察している。観察も春の発芽から開花の時期は毎日のように鉢をのぞき込んでいるが、残り少ない浮葉にわずかに花が付き、果実の沈むころは、少しずつ鉢を見る機がうすれ、週一回の決まった時にみる

ことになる。

この春、鉢を洗い昨年の果実を標本にと乾燥した中に5刺のヒメビシを見た。開花の時、花弁(萼)は5つであつたのだろうか? 観察(観=よくみる)の意味を改めて肝に命じた。5刺ヒメビシの前後刺針は角度がいかにヒメ(姫)らしい。(1990. 6. 25)

山口県でホザキノフサモ *Myriophyllum spicatum* L. 第2の記録

塩見隆行・阿武至朗・多賀谷三枝子・南 敦

この種の記録は岡国夫ほか編(1972)『山口県植物誌』によれば「美東町赤郷(宮の馬場) 二階重楼 1895. 9. 24」がある。

1990(H. 2). 8. 17 著者等が美祿郡秋芳町広谷の水路の岸を歩いている時、その水路の中に見つかった。この水路は秋芳洞のごく近くにあり、幅1.2m、こうもり穴から出た冷たい水が流れていた。この時、水は水路の幅3分の1しか流れていなくて、ホザキノフサモはその中にあつた。ホザキノフサモは幅約50cm、長さ約2mにわたって良好な状態で生育していた。この標本には花序がないが、類似のフサモとの違いは、全体鮮緑色であること。茎の横断面がホザキノフサモと同一であることなどによって、ホザキノフサモと同定した。山口県立山口博物館学芸員三宅貞敏先生によれば、同館には標本がないとのことであつた。証拠標本は近日中に同館に納入の予定である。

また、山口県立柳井高等学校にも栽培している。末筆ではあるが色々御教示いただいた三宅貞敏先生に厚く御礼申しあげる。

## 文献

- (1) 大滝末男、石戸 忠、1980. 日本水生植物図鑑、北隆館
- (2) 岡国夫ほか編、1972. 山口県植物誌

